

## 辻 梨絵子 / TSUJI Rieko

近年は他者との対話をきっかけに、平面、立体、映像などジャンルにとらわれず表現を行っている。メディアの影響や役割、インターネットのもたらした文化の変革、国をまたいだオンラインでのやりとりについて思考し制作をしている。個人的なチャットの内容を作品にすることもあれば、それと同時に天体や惑星をモチーフにしたインスタレーションを構成するなど、規模の異なる事象を並べることで、鑑賞者に公と私、客観と主観の入り混じった世界を提示する。

つじ・りえこ | 1991年東京生まれ。2019年東京芸術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。在学中、ドイツ・バウハウス大学に交換留学。主な展覧会に「くぜりあいのうたい『きみまち』」(いわき芸術文化交流館アリオス、福島、2022)、「食と現代美術 vol.8『アートと食と街』」(BankART KAIKO、横浜、2021)、「TOKAS-Emerging 2021『ルリジサの茶』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京、2021)、「End Of Summer Open Studio」(Yale Union、ポートランド、2019)、「CAF賞2018入選者作品展」(ヒルサイドフォーラム、東京、2018)、「Fictionality」(S.Y.P Gallery、東京、2017)、等。



《バーチャルロマンス》2019

## 小林 椋 / KOBAYASHI Muku

ある事物や歴史的な出来事に対して物理的な装置やオブジェを導入させることで生まれる飛躍や、不和や違和感を観察しながら、別様な姿を思弁するための作品を制作する。近年はキネティックな映像装置を用いて映像空間と現実空間の事物を認知的に交差させるシリーズや、技術や機械の文化的・歴史的な出来事をもとに、可能性としての歴史を離散的な物語として再構成するインスタレーションを展開している。

こばやし・むく | 1992年東京都生まれ。2017年多摩美術大学大学院修士課程情報デザイン領域修了。2019年京都市立芸術大学大学院修士課程彫刻専攻修了。主な展覧会に「ニューミュージーション#4 小嶋晶・小林椋」(京都芸術センター、京都、2021)、個展「州ん」(ギャラリーN、愛知、2020)、個展「ソテツとてつもなく並」(ギャラリー16、京都、2019)、個展「エマーゼンシーズ!032『盛るとのるソー』」(NTTインターコミュニケーションセンター[ICC]、東京、2017)など。時里充とのユニット「正直」でも活動。



《ホつも木、立つも平》2021 Photo: Takaya Matsumi

BankART  
Under 35  
202235歳以下の作家の  
個展シリーズU  
35

4.28thu - 5.15sun

ONODA Ai  
小野田 藍  
YU Sora  
ユ・ソラ

6.10fri - 6.26sun

NAKABAYASHI Arisa  
ナカバヤシ アリサ  
ADACHI Atsushi  
足立篤史

5.20fri - 6.5sun

TERADA Kento  
寺田健人  
KUMAGAI Takuya  
熊谷卓哉

7.1fri - 7.18mon

TSUJI Rieko  
辻 梨絵子  
KOBAYASHI Muku  
小林 椋

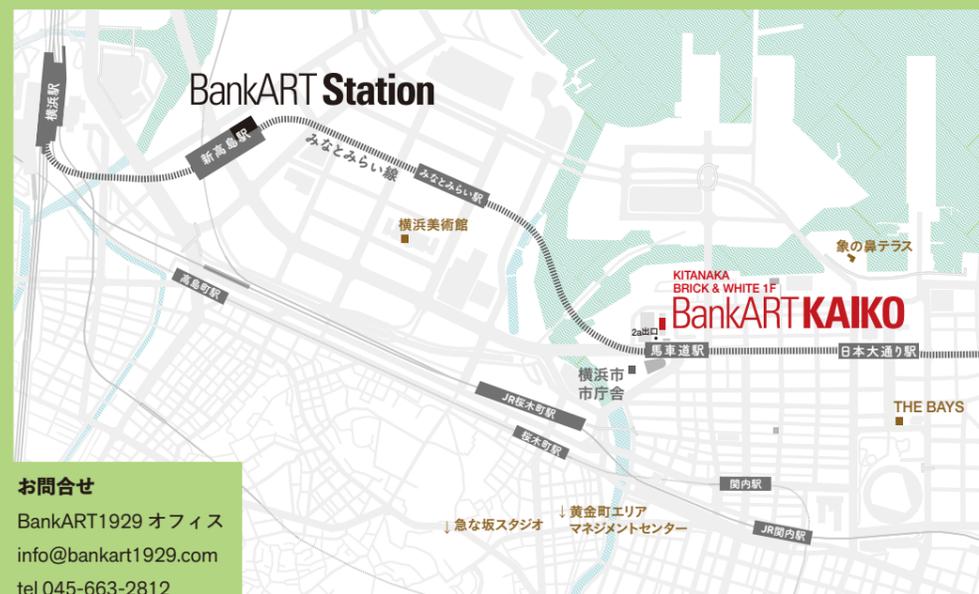
## BankART KAIKO

横浜市中央区北仲通 5-57-2 KITANAKA BRICK &amp; WHITE 1F

時間 11:00~19:00

料金 一般200円(カタログ1種類1部進呈)中学生以下、及び障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

主催:BankART1929 共催:横浜市文化観光局



## お問合せ

BankART1929 オフィス  
info@bankart1929.com  
tel 045-663-2812



## アクセス

BankART KAIKO  
横浜市中区北仲通5-57-2  
KITANAKA BRICK & WHITE 1F  
tel 045-663-2813  
みなとみらい線「馬車道」駅  
2a出口直結徒歩1分

# BankART Under 35 2022

BankART1929の2022年度最初の企画展は「BankART Under 35 2022」という35歳以下の作家の個展シリーズです。2008年からこれまで46チームのクリエイターが選ばれて、展覧会を開催してきました。2022年度は8名の作家を4期にわけてご紹介します。

第1期：4月28日〔木〕～5月15日〔日〕 小野田 藍、ユ・ソラ  
第2期：5月20日〔金〕～6月5日〔日〕 寺田健人、熊谷卓哉  
第3期：6月10日〔金〕～6月26日〔日〕 ナカバヤシアリサ、足立篤史  
第4期：7月1日〔金〕～7月18日〔月〕 辻 梨絵子、小林 棕

時間 | 11:00～19:00

会場 | BankART KAIKO

料金 | 一般200円(カタログ1種類1部進呈)

中学生以下、及び障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

本展覧会に併せて、各作家の個人カタログを刊行、販売いたします。

1冊200円〔税込〕A4変形判/24ページ

●オープニングレセプション

各会期初日の19:00～20:00

参加費：500円(カタログ2種1部ずつ進呈、1ドリンク付)

## 第1期 4.28thu - 5.15sun

### 小野田 藍 / ONODA Ai

他人に気持ちが伝わったり伝わらなかったりするのとはなぜでしょうか。仲良くしたいはずなのにいつも一人ぼっちになってしまうのとはなぜでしょうか。言っていることとやっていることがしばしば真逆になってしまうのはどうしてでしょうか。分からないことだらけの毎日なのに、分からないまま何となく生きられてしまう現実。でも、分からないままではいけない時がたまにあります。そういう時は本当に芸術に助けられています。

※「Vexations」演奏：5/4〔水・祝〕11:00～19:00

おのだ・あい|1988年群馬県生まれ、東京都在住。2014年武蔵野美術大学芸術文化学科卒業。2022年東京藝術大学大学院修士課程先端芸術表現専攻修了。2014年-2020年日本郵便株式会社勤務。主な展覧会に「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015 今日の限界芸術百選展」(まつだい「農舞台」、新潟、2015)、「限界芸術百選プロジェクト#2 関係性の美学」(まつだい「農舞台」、新潟、2014)。主なパフォーマンスに「Groundskeeper」(旧前橋市立第二中学校、群馬、2021)、「さいたま国際芸術祭 2020 見えない経験、組織されない身体」(旧大宮図書館、埼玉、2020)。



《まるとしかく》2018

### ユ・ソラ / YU Sora

災害や事故などで突然、多くの人が亡くなったり、生活の場所が無くなったり、日常を失ってしまうことがある。私たちの身近な所で、世界で、悲しいことは続いている。自分にできることは、今を生きている人たちが日常の大事さに気づくような作品を作り続け、発信することではないか。そういう想いで、些細な日常生活を描いている。白い布と黒い糸を使った刺繍の平面作品や実物大の立体作品のインスタレーションなど、日常を見つめ直す作品を展開している。

ゆ・そら|1987年韓国、京畿道生まれ。2011年弘益大学(Hongik University、韓国)彫塑科卒業。2020年東京藝術大学大学院美術研究科 彫刻専攻修士過程修了。2013年黄金町バザール参加、2019年六本木アートナイト参加。2020年第68回東京藝術大学修了作品展賞上作品賞と杜賞を受賞。2018年 Tokyo Midtown Award 優秀賞、2022年 Sanwa company Art Award グランプリを受賞。近年の主な個展に「普通の日」(あまらぶ アートラボ A-lab、兵庫、2021)、「些細な記念日」(Gallery Lotte、ソウル、2018年)、「引越し」(YCC Gallery、横浜、2017)など。



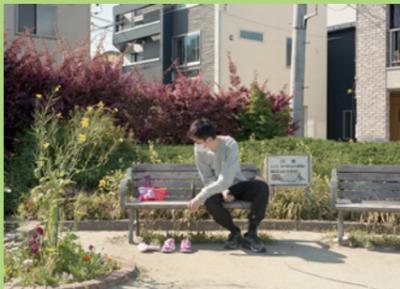
《帰るところ》2020

## 第2期 5.20fri - 6.5sun

### 寺田健人 / TERADA Kento

家族などの共同体が記念写真や集合写真を撮影するときの〈見る/見られる〉の関係と振る舞いに関心を持ち、その行為をセルフポートレートやスナップで模倣する作品を制作している。近年は父親に注目し、家空間の中で父親が父親らしくパフォーマンスできる場所やシチュエーションを映画や広告、家族写真から引用している。作品を通して、日常生活の中で「らしさ」を演じてしまう、あるいは演じなければいけない状況を見つめなおす。

てらだ・けんと|1991年沖縄県生まれ、東京在住。2019年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。2021年横浜国立大学大学院都市イノベーション専攻博士課程後期入学。主な展示会に「琉球の横顔 - 描かれた私からの出発 -」(沖縄県立博物館・美術館、沖縄、2021)、「人間臭さを勝ち取るための実践」(Alt Medium、東京、2021)、「沖縄も私〜つながっていることつなげること〜」(茨城県つくば美術館、茨城、2020)など。



《公園、娘》2021



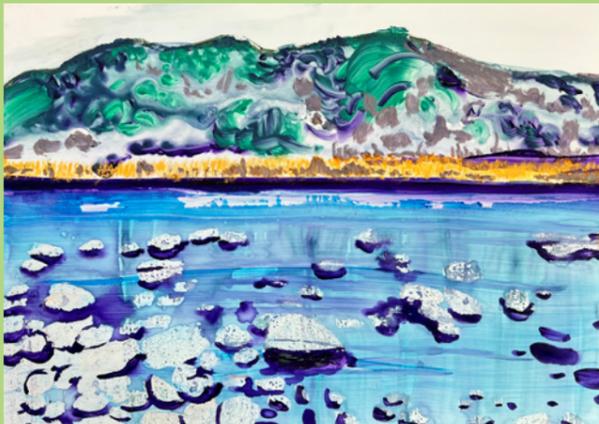
《ただいま01》2020

## 第3期 6.10fri - 6.26sun

### ナカバヤシアリサ / NAKABAYASHI Arisa

オートマティズムと素早いブラシストロークで森や川にも見える滲みのようなものを描く。例えば道に出ないようにと不自然にカットされた街路樹は耳を傾けてもらえなかった彼女に、庭園を流れる水は人から守られ暗闇を出ることのない彼に、一見、風景画にも見える絵が生々しい人々のリアルとして表現されている。それらは、鑑賞者のバックグラウンドや世の中の課題によってたえず変化し、他人の痛みを想像させる絵画となり得る。

なかばやし・ありさ|1992年東京都新宿区に生まれる。2017年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2018年相模原の共同アートスタジオLION加入。現在も相模原を拠点に活動。主な作品発表に「メンヘラ展 special」(TAV GALLERY、阿佐ヶ谷、2015)、「トーキョーワンダーシード」(トーキョーワンダーサイト、渋谷、2016)、「BankART AIR」(BankART Station、横浜、2019)、「Semi、セミ」(Museum of Tetsuo's Garage、日光、2019)等。



《opposite bank》2022

### 熊谷卓哉 / KUMAGAI Takuya

日々目にするモノや場、行為などを公/私それぞれの視点で収集し「彫刻」として並べ置く。自身の作品制作や展示に加え、企画・キュレーション等を通して「彫刻」と呼び得る条件を探りながら、公と私の併存を模索する。近年は主に3DCGや3Dプリンター等で制作された立体や映像、仮想空間といったメディアを用いて、場の分節による多層的な空間の展開、鑑賞者との関わり方、素材と構想といった面から彫刻表現の新たな可能性を提示しようと試みている。

くまがい・たくや|1987年京都府生まれ。2012年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。主な展覧会に、個展「Sea Change」(武蔵野美術大学gFAL、東京、2021)、「Rollin' Rollin'」( Finch Arts、京都、2020)、「SUBJECT」(HOTEL ANTEROOM GALLERY 9.5、京都、2020)、「パープルタウンでパープリズム」(パーブルーム、神奈川、2018)、「Tips」(京都芸術センター、京都、2018)等。また「RC HOTEL 京都八坂」、「波さがしてっから」等での展示企画や、アートフェア「OBJECT」の運営も行う。



《公共彫刻計画(男性性)》2021



《Sea Change Machine》2021

### 足立篤史 / ADACHI Atsushi

主に新聞や雑誌など、「活字」を媒体に“記憶を記録する”をコンセプトに制作している。この世に存在する物には、その“モノ”が存在した時代、歴史、そして人々の記憶が刻まれていると考え、その記憶を当時の資料をもとに今まで形がなかったものを“実体化”することにより、目に見えないものとして存在していただけた記憶を“記録”として残している。

あだち・あつし|1988年横須賀市生まれ。2014年東京造形大学美術学科彫刻専攻卒業、東京造形大学卒業研究・卒業制作展「ZOKEI賞」受賞。主な展示に、個展「記憶-Kioku-」(ニューヨーク、2014)、「第1回CAF賞入選者展」(東京、2014)、「第18回岡本太郎 現代芸術賞」(川崎、2015)、「都美セレクショングループ展『紙神』」(東京、2016)、「TAMA VIVANT II 2017- ポガティブ-」(東京、2017)、「TOKYO ILLUSION」(台中、2018)、「Emerging Tokyo」(ニューヨーク、2019)等。



《1943\_zero》2021